



新交流複合施設の ゾーニング・配置について

1. 施設配置計画の検討

周辺と連携し市民が使いやすい施設配置計画の検討

施設配置の検討にあたっては、「道の駅・船場公園との連携」「中心部との連携」「駐車場の利便性」「景観・視認性」「津波・洪水浸水時における中心市街地からの避難」、等の要素から施設配置計画を検討

○施設を介して周辺との連携を活性化

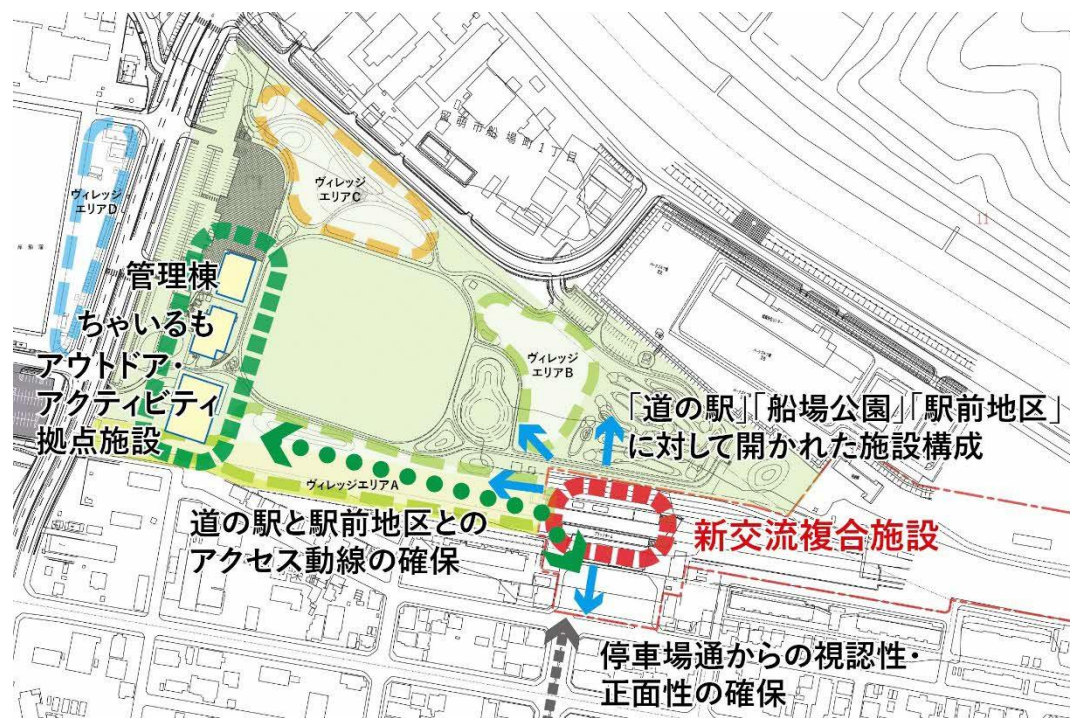
- ・駅前地区と道の駅を結ぶ動線を強化するために、計画敷地を貫通できる動線を検討

○市民が立ち寄りたくなる空間整備

- ・船場公園からのアクセスも容易で、直接出入りが可能な施設を検討
- ・公園に面した西・北側空間は、公園とひとつながりで利用できる空間を検討

○市民・民間との協働による運営体制の構築

- ・「使いやすい訪れやすい施設」の実現にあたっては、使い方を限定しないフレキシブルな空間整備と行政・市民・民間との協働による運営体制の構築が必要



- ・特に目的が無くても訪れたくなる、そこに行けば何か新たな交流や活動が期待できる、そういった施設を目指す

1. 施設配置計画の検討

敷地周辺環境と連携した建物配置計画

- ・建設予定地は、旧 J R 留萌駅敷地とその周辺の土地で、北側に留萌川、西側に留萌港（日本海）がある**細長い敷地形状**が特徴。
- ・**計画施設は道の駅に近い敷地西側に配置**することで、船場公園に対して接する辺が長く、建物内部の**機能配置がしやすい**計画となる。
- ・**停車場通の延長上に配置**することで、**見通し・視認性が良く、中心市街地との連携がとりやすい**とともに円滑な車両動線の計画が可能。

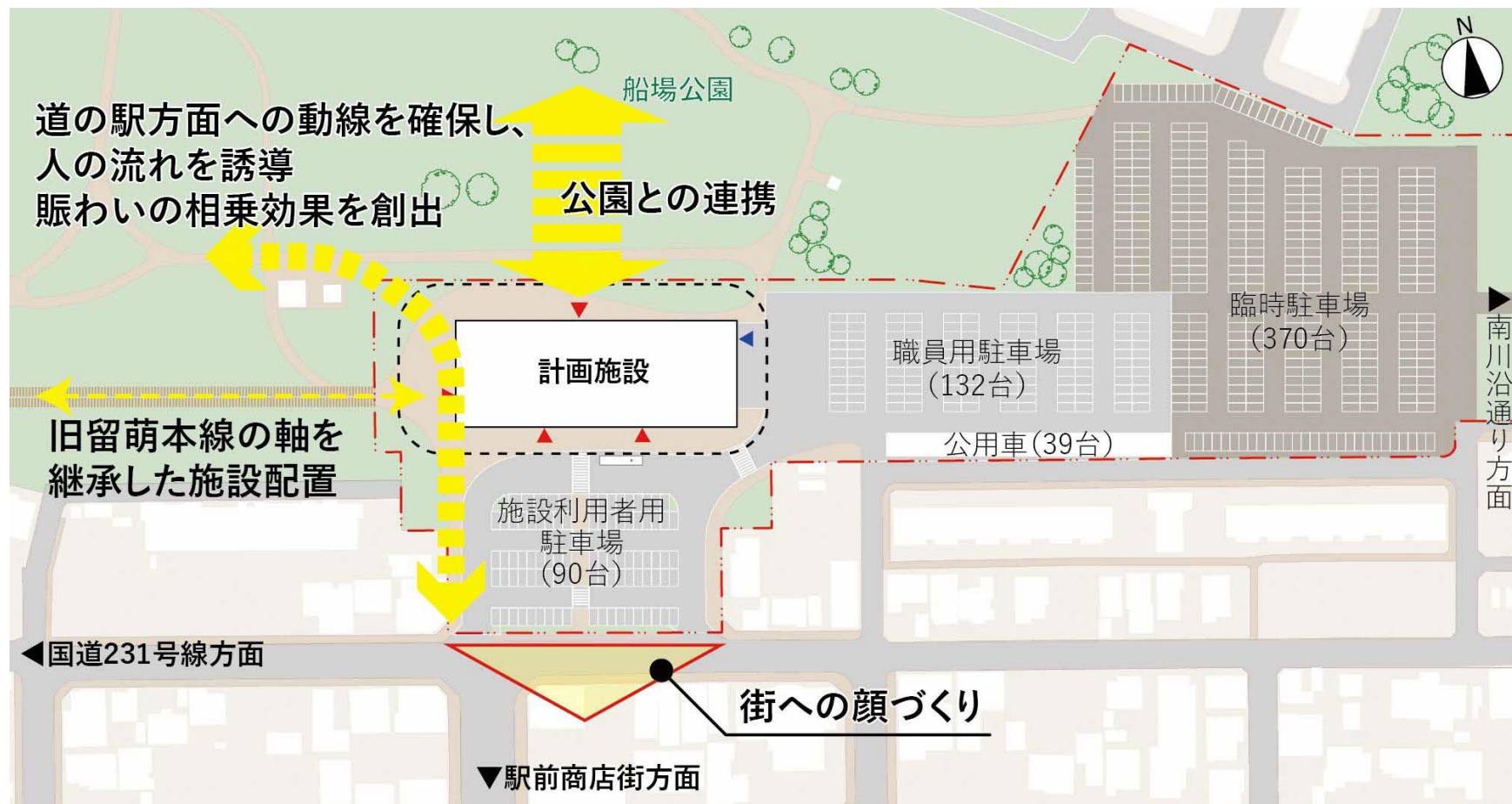


計画地	北海道留萌市栄町1丁目、末広町 1丁目、船場町1丁目・2丁目
敷地面積	49,013.15 m ²
用途地域	準工業地域・商業地域
建蔽率	60%・80%
容積率	200%・400%

2. 施設配置計画案

○道の駅から回遊を誘発する建物配置

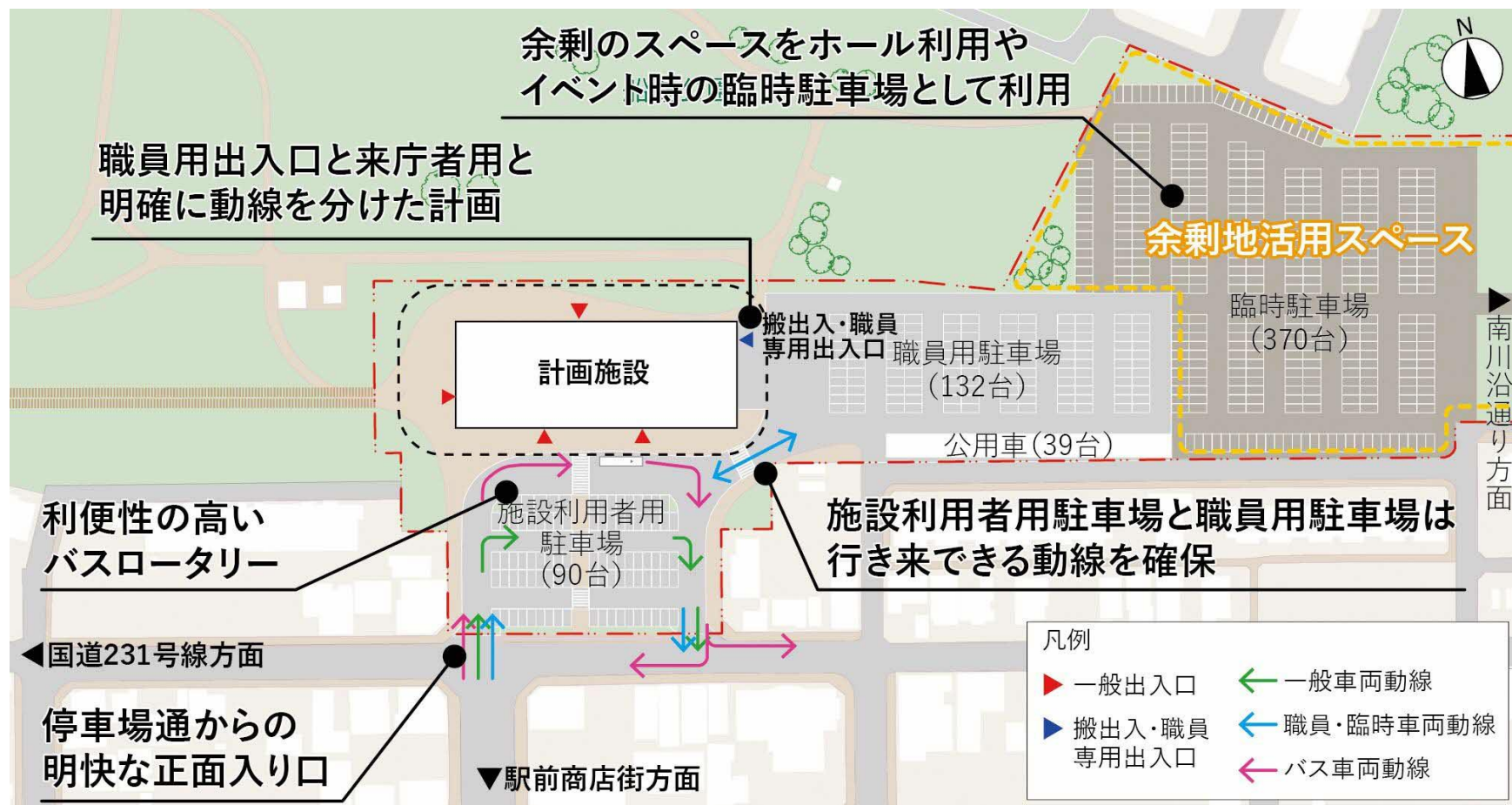
- ・道の駅や船場公園と連携し、「まち」へつながる動線を確保した施設整備が可能。
駅前地区と道の駅を結ぶ動線を強化するために、計画敷地を貫通できる動線を設置。
- ・旧留萌本線の軸を継承した配置を検討。



2. 施設配置計画案

○駐車場の日常利用とイベント対応

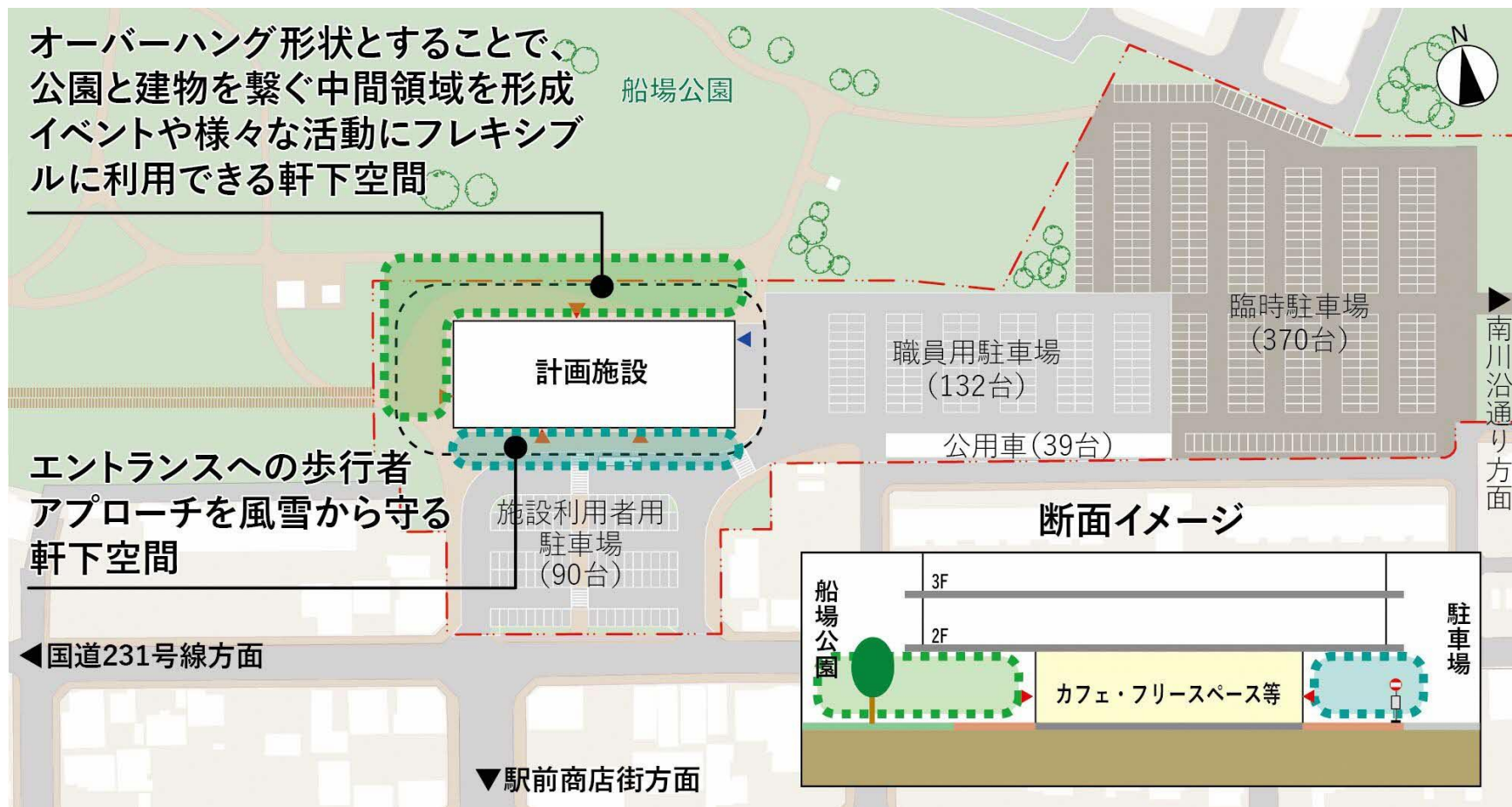
- ・旧駅前広場を施設利用者用駐車場としてめ、**アクセスしやすく、正面入口が明快な計画**を検討。
- ・旧駅前広場をバスロータリーとしても活用し、**円滑なバス動線**を確保。
- ・**東側余剰地を臨時駐車場として利活用する**計画とし、イベント時においても十分な駐車台数を確保。



2. 施設配置計画案

○建物形状の検討

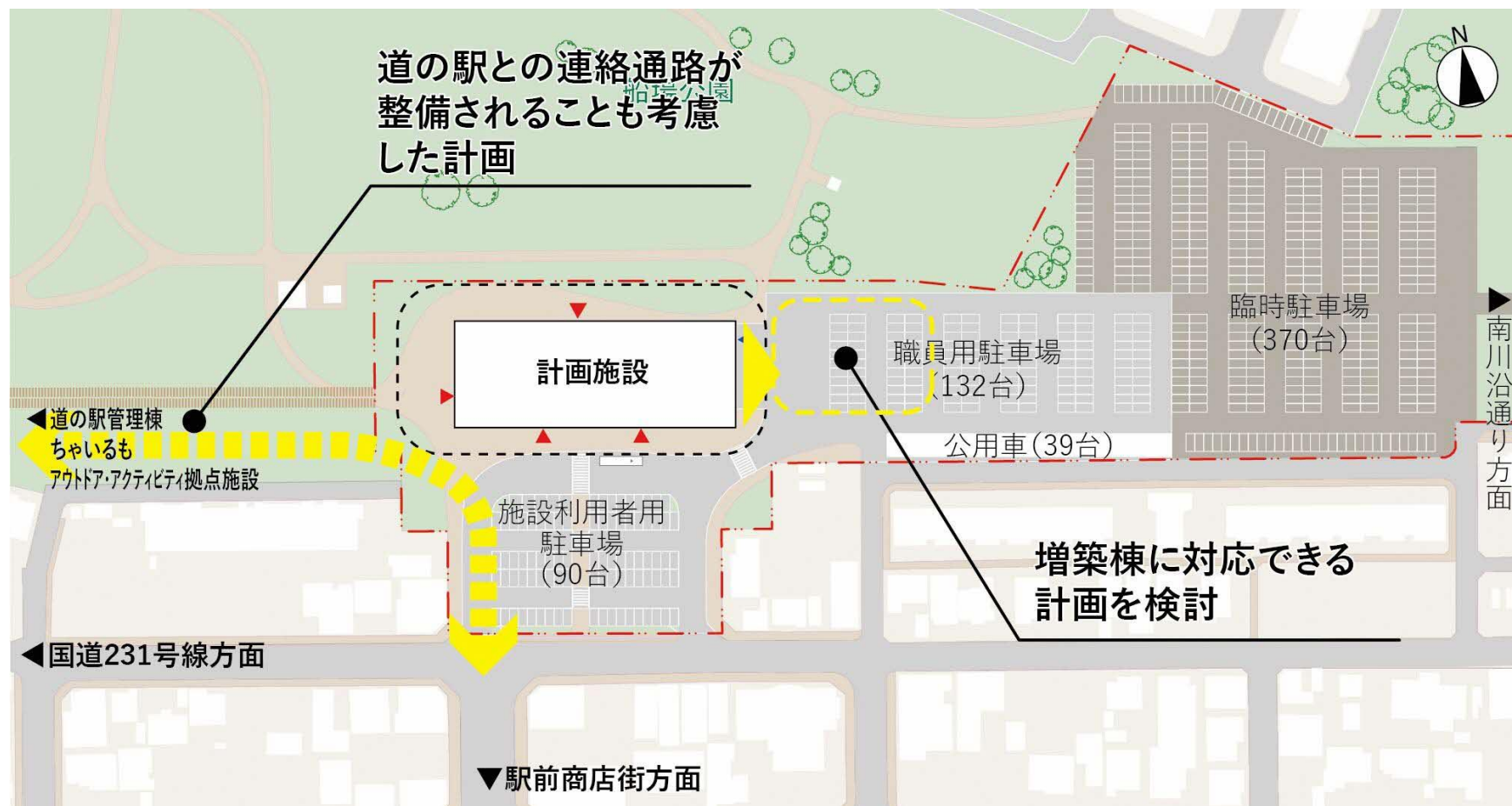
- ・建物形状をオーバーハングとすることで、駅前側エントランスは**歩行者アプローチを風雪から守る軒下空間**として、公園側は天気によらず**イベントや様々な活動にフレキシブルに利用できる軒下空間**として機能。
- ・公園側にも出入口設けることで、**公園と一体的な利用が可能となる施設**を提案。



2. 施設配置計画案

○将来の拡張と他施設の移転集約を考慮した施設配置・土地利用計画

- 敷地東側の余剰地スペースは、**将来的な他の公共施設の移転集約等の敷地としての利活用**や**増築棟にも対応できる計画**を検討。
- 道の駅側からの連絡通路が整備されることも考慮し、**街の回遊性が高められる計画**を検討。



3. 施設計画の検討

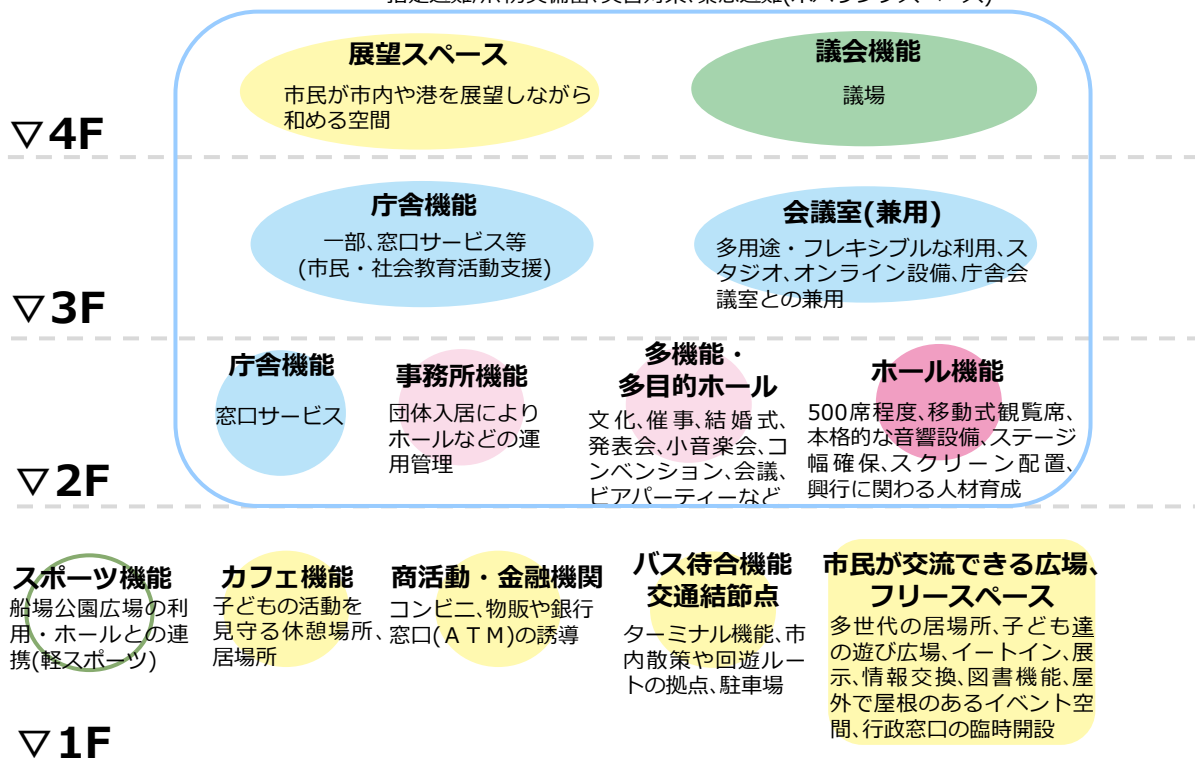
利用者がわかりやすい明快なフロアゾーニング

- ・施設の複合化により、**様々な目的を持った方が来訪**。
- ・フロアごとに機能を分け、**市民が使いやすく、かつ管理しやすい施設**として計画。
- ・**吹抜空間を中心とした動線でつなぐ**ことで、**各フロアの機能がゆるやかにつながり、連携するゾーニング**を計画。

●基本構想時の整備イメージ

防災機能

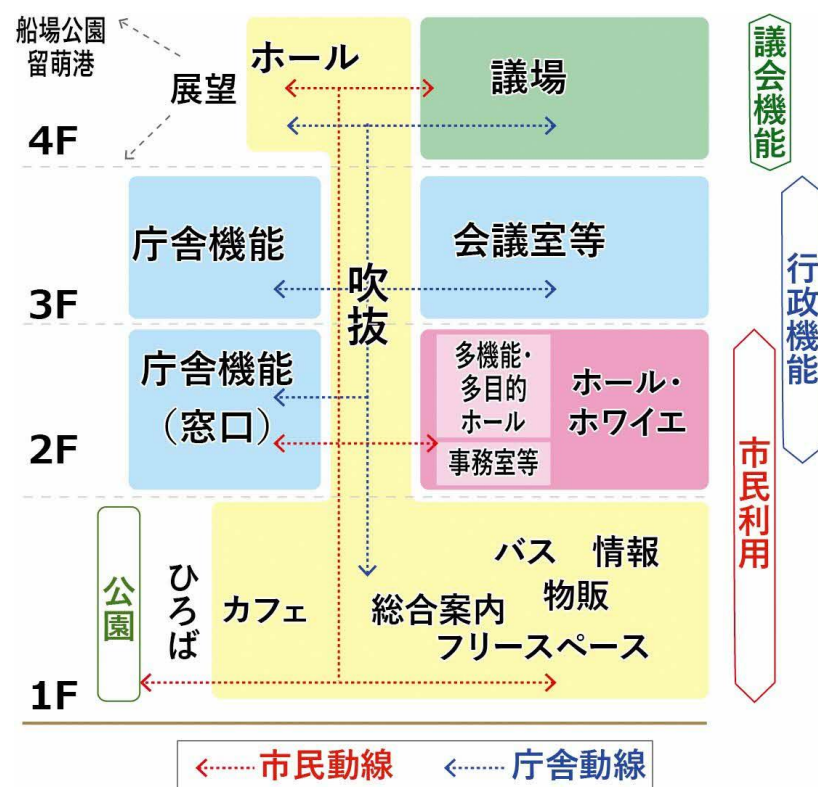
指定避難所、防災備蓄、災害対策、緊急避難(ホバリングスペース)



3. 施設計画の検討

【1F】公園と一体的につながる開かれた市民交流フロア

- ・カフェや物販、バス待合などは1階に配置し、ガラスを多く使うなど内部の賑わいが外部にも伝わる開かれた空間として、誰でも気軽に立ち寄れる施設計画を検討。
- ・カフェは船場公園に面して配置し、軒下空間を活用することで、公園と一体的にみどりを感じながら思い思いに過ごせる空間を創出。軒下空間はイベントの開催やキッチンカー出店、マーチングバンドの練習等にも活用可能。
- ・1階のフリースペースはイベント等にも利用しやすいフレキシブルな空間として整備。



【2F】ここにしかないホールを実現した留萌の文化拠点フロア

- ・様々な市民活動や文化活動の拠点である文化・集会・社会教育機能はアクセスしやすい2階に配置。
- ・吹き抜けに面するエスカレーターを検討。2階に上がると、吹き抜けに面して西側は庁舎窓口機能、東側はホール機能（駐車場からの搬入動線を考慮）、その間に多目的ホールの配置を検討。
- ・公演の無い日は、ホールのホワイエは開放し、自由にくつろげるラウンジとして兼用利用できる計画を検討。

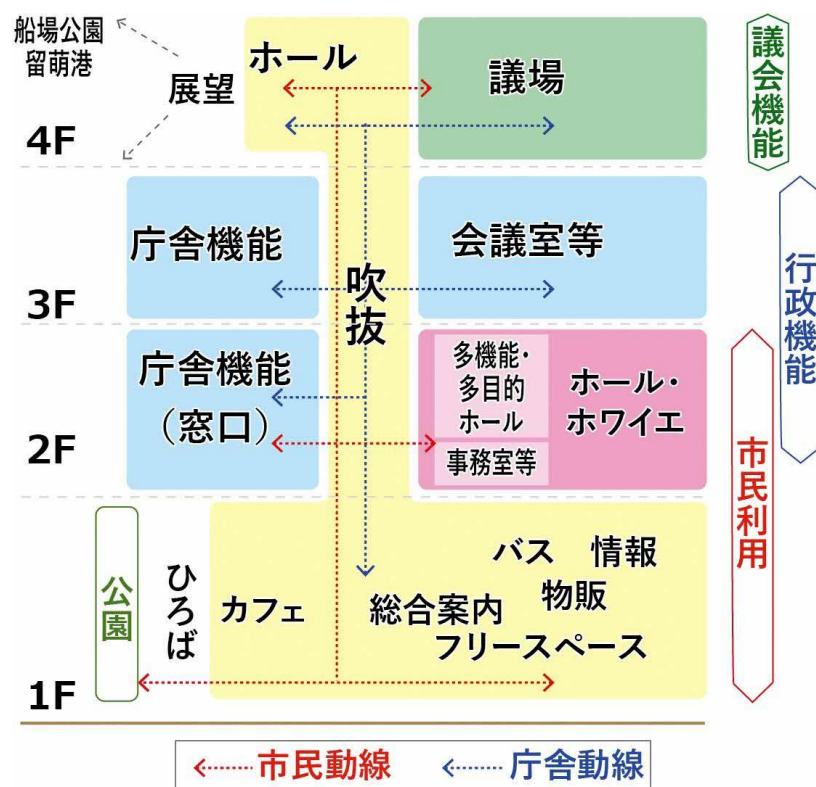
3. 施設計画の検討

【2F・3F】 集約され機能連携を図った庁舎フロア

- ・**庁舎機能は、BCP機能の強化のため、洪水・津波の浸水深を考慮し、2階・3階に配置。**
- ・市民利用が多い**窓口機能は2階に集約**することを検討。
- ・災害対策本部として機能する**市長室や副市長室、会議室、執務室は3階ワンフロアに収める計画**として検討。
- ・**フレキシブルな執務環境づくり**を検討。

【4F】 展望スペースに面した開かれた議会フロア

- ・**気軽に来訪できる開かれた議会**を目指し、**最上階の展望スペースに面して市民の憩いの場としても機能**する計画として検討。
- ・**議会開催時期以外は会議室等として利用**できる運用を提案。
- ・電気室、機械室、備蓄庫といった浸水を避ける必要がある室も機器の更新などを考慮し4階に計画。



3. 施設計画の検討

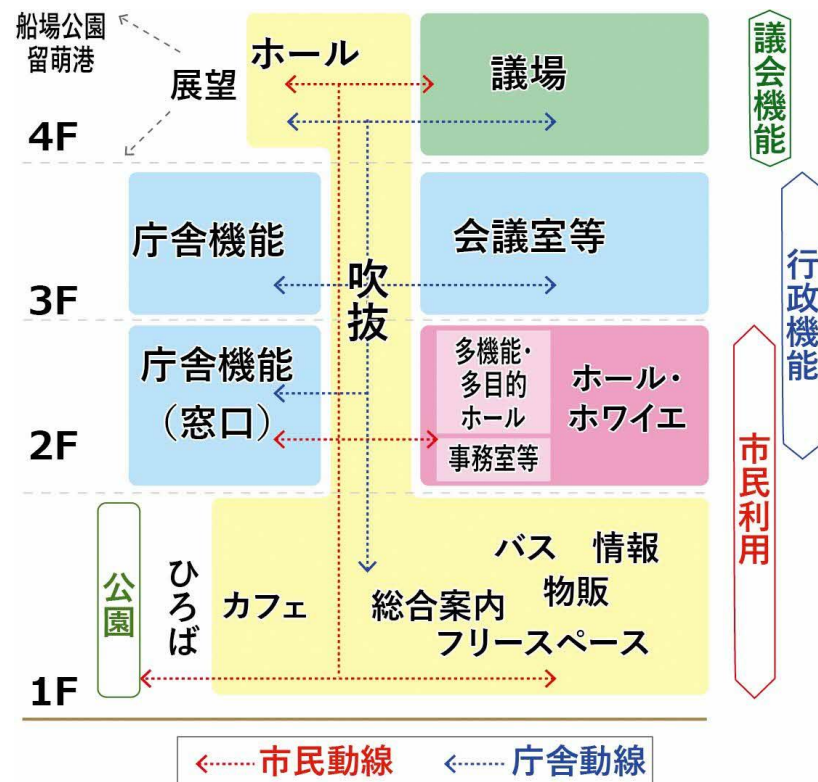
兼用機能・セキュリティ計画

○複合化による兼用機能

- ・各空間が連携し、使い勝手のよいフレキシブルな活用ができるように計画を検討。
- ・庁舎やホール等における会議室の兼用利用。
- ・ホールの利用がないときはホワイエをラウンジとして開放。
- ・大ホールや議場は、ホールやホワイエ空間と一体的な利用ができるよう計画。

○セキュリティ計画

- ・複合化により、機能ごとの開館時間が混在。
- 機能ごとに、**施錠や管理が可能なセキュリティラインの分割設定**など、**わかりやすいセキュリティ計画**を検討。



施設整備における防災対策について

- | | 通常時 | 非常時 |
|------|-------------------|----------------|
| 外部 | 展望デッキ | 一時避難・ホバリングスペース |
| 外部 | 展望デッキへ繋がる階段・バルコニー | 垂直避難動線 |
| 2階以上 | 役場事務室 | 災害対策事務室 |
| | 大会議室 | 災害対策本部 |
| | 市長室 | 指令室 |
| | ホール・多目的ホール・議場 | 一時避難所 |

再生可能エネルギーを災害時に利用

非常用発電機

一時避難スペース (ホバリングスペース)

一時避難所 (議場)

受変電

一時避難所 (ホール・多目的ホール)

災害対策事務局 (役場事務局)

災害対策本部 (太会議室)

指令室 (市長室)

備蓄

災害対策スペース

垂直避難

浸水深

公園

公園から直接避難できる階段

中水ピット

非常用汚水槽

トイレの洗浄水として利用

浸水エリア

万全な浸水対策

駐車場